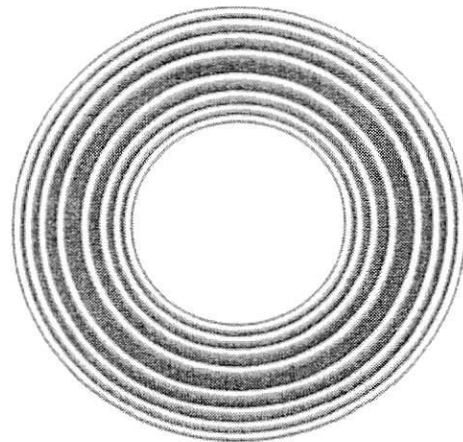


生活学会報

平成16年10月

VOL.31 NO.1

第31回秋季研究発表梗概



日本生活学会

生活学会報

2004年10月16日(土)・17日(日)

九州大学芸術工学研究院

人工物プログラム科学論から解釈できる生活学の構成

千里金蘭大学短期大学部 三石博行

1、生活病理の臨床の知としての生活学

1937年の東北大冷害を契機に農村の生活改善運動に取りかかった今和次郎によって、生活構造論や生活病理学が提案され生活学は生成された。生活学は、その形成時から今日に至るまで、貧困、生活病理を生み出す風習、生態環境汚染、高度情報化社会、生活習慣病、青少年犯罪、地域共同体の崩壊、災害、犯罪、高齢化、国際化、家族崩壊、等々、同時代の生活構造の調査や分析と、その改善のための技能や知識を摸索しながら発展してきた。その意味で、生活学は、生活病理の解明とその臨床の知であるといえる。

生活病理の臨床の知としての生活学の科学性や合理性は、その知の有効性と実践的な解決能力の評価によって判断される。生活学は、人間社会学、工学、医学、農学、薬学、経済学的、文化人類学的、美学、体育学、心理学、哲学・倫理学をはじめ、療法や漢方医学も含め近代科学の流れの中では科学として承認されてないが、古くから受け継がれてきた知識や技能を援用しながら、生活の改善を試みる学際的で実践的な学である。生活学は、したがって生活資源に関する自然科学的な没価値的な実証科学ではない。生活環境と生活主体の利益を目指し、より良い生活スタイルや環境に関する理念や価値観に基づく、生活空間の設計学（デザインサイエンス）である。我々の生き方や社会文化のあり方を全体論的に理解し、最も適した生活様式や生活素材を見つけ出すための学であるといえる。

2、科学技術文明社会と人工物プログラム科学理論の課題

近年、吉田民人は人工物プログラム科学理論を提案してきた。人間社会学や応用自然科学分野の対象は、農業、工業、社会経済システムや文化環境である。それらは、総じて、人間行為の結果から生み出された生産物であるといえる。この生産物を人工物と呼んでいる。人工物を構成しているプログラム構造（デザインの背景にある概念や論理）を解明する科学理論を、ここでは、吉田民人の命名した人工物プログラム科学理論と呼んでいる。

人工物の構造やデザインを分析するためには、その科学理論が、物理主義に代表される普遍法則を持つという呪縛から解放される必要があった。科学理論とは、歴史的、文化的、社会的パラダイムに支配されていることを前提にして、理解されている。その意味で、プログラムの概念の中に「表象、言語、価値の体系（イデオロギー）を前提として成立する

科学認識」を前提にしているともいえる。

この人工物プログラム科学理論によって、現在、進展しつつある工学と人間社会学の学際的な発展に代表される21世紀型の工学や医学の方向が理解できる。その流れの中に、生活学を人工物プログラム科学理論から解釈する試みが可能になる。しかし、この新しい試みに取り掛かる前に、人工物を構成しているプログラム構造とは何かを明らかにしておく必要がある。

社会学の学説史を振り返っても、社会文化や人間（人工物）の分析理論は、同時代の他の科学、例えば、生物学、物理学、精神分析学、心理学、文化人類学、言語学、分子生物学などに影響されている。同時代の社会現象を説明する道具として、理論が登場していた。それは、物理学のように、それぞれの物理現象を説明した古典力学、熱力学、流体力学、電気力学、統計力学の理論が、その後、新しく展開される力学モデルによって説明可能な体系的展開を、義務づけているわけではない。その意味で、この理論は、法則性の解明を課題にしていない。何故なら、経済学や政策科学に見られるように、その目的は、実践的な改善策を見出すことである。工物を構成しているプログラムのあり方を理解しようとする理論的解釈は実践力を導き出すための道具である。

人工物を生産するための理念、理論、技術を総じてプログラムと表現している。人工物を生産する考えや方法は、歴史的、文化的、社会的に多様であり、また、それらの合理性が一つの価値判断や倫理で決定されないため、プログラムという概念で表現することによって、多様な生産物が構成される背景性を簡単に説明できる。何故なら、プログラムは、状況によって、組み替え、変換が可能となり、それ自身が進化（自己組織）することが出来るからである。情報科学や遺伝子学で使われたプログラムや遺伝情報という概念を人工物の構成の解明に援用することによって、農学、工学や医学を自然科学主義や経営学中心主義から、生活文化環境や生活主体の状況にあった「改善の知」として位置づけようとしたのである。

科学技術文明社会では、科学的法則を普遍的合理性と考える科学主義が支配してきた。科学技術文明での人間疎外の原因は、科学技術生産物とその生産者である人間と社会文化に対して、独立した存在しているものであると錯覚することによって生じている。人工物プログラム科学理論は、その伊鰯を正す理論ある。

3、生活資源のプログラム構成

吉田民人の人工物プログラム科学論を展開は、生活空間の改善の科学技術を課題にしたと

き、最も具体的に展開可能となる。生活病理の臨床の知としての生活学を人工物プログラム科学理論で展開することによって、21世紀の科学が生まれる。すべての科学は人間のためにあり、より良く生きるためにある。生活重視の価値観を実現する知が臨床の知の前提になる。

生活学はライフスタイルや生活環境の改善を課題にしているため、分析の対象は、同時に生活環境であり生活主体である。生活主体と生活環境を分離して生活学の理論を展開することは出来ない。生活主体と生活環境（生活空間）は、生活行為によって作り出される。その蓄積を生活資源と呼ぶ。また、生活資源は、生活様式と生活素材によって構成されている。それらの四つの要素は分離できない。何故なら、生活素材は生活様式によって生み出され、生活様式は生活素材に規定される。そして、生活環境（外的要素）は生活主体（内的要素）によって生産され、生活主体が生活環境に規定しているからである。

生活様式と生活素材、生活主体（内的要素）と生活環境（外的要素）によって構成されている生活資源のあり方を解釈するために、四つの要素によって構成されているプログラムの構造を表1に示す。

表1、生活資源のプログラム構造

生活資源	生活素材	生活様式
外的要素	外的生活素材のプログラム 生活環境の構造形態	外的生活様式のプログラム 生活環境の活動形態
内的要素	内的生活素材のプログラム 心身の構造形態	内的生活様式のプログラム 心身の活動形態

生活構造論や生活システム論の学説から、生命を維持するための一次生活構造に規定される生活資源を一次生活資源、豊かな生活を形成するための二次生活構造に規定される生活資源を二次資源、余暇を楽しむための三次生活構造に規定される生活資源を三次生活資源と定義する。

一次生活資源は一次生活素材と一次生活様式からなり、一次生活素材は、内的一次生活素材と外的一次生活素材から構成される。また、一次生活様式も内的一次生活様式と外的一次生活様式から作られている。次に、二次生活資源は、二次生活素材と二次生活様式からなり、二次生活素材は、内的二次生活素材と外的二次生活素材から構成される。また、二次生活様式も内的二次生活様式と外的二次生活様式から作られている。さらに、三次生活資源は、三次生活素材と三次生活様式からなり、三次生活素材は、内的三次生活素材と外的三次生活素材から構成される。また、三次生活様式も内的三次生活様式と外的三次生活

様式から作られている。

以上の生活資源に関する12のカテゴリーを表2にまとめる。

表2、生活資源の発生的構造とその定義

生活資源	生活素材		生活様式	
	内的要素	外的要素	内的要素	外的要素
一次生活資源	内的一次生活素材	外的一次生活素材	内的一次生活様式	外的一次生活様式
二次生活資源	内的二次生活素材	外的二次生活素材	内的二次生活様式	外的二次生活様式
三次生活資源	内的三次生活素材	外的三次生活素材	内的三次生活様式	外的三次生活様式

4、こころの生活病理の分析と総合的な臨床の知の課題 (例題)

現代の生活病理の重要な課題の一つとして、家族関係や、こどものこころの生活習慣病がある。その解決のために必要な問題点を表2から導くと、表3に示す課題と研究分野が提案される。

表3、こころの生活病理に対する生活学の課題

生活資源	生活素材・様式			
	内的要素	研究分野の例	外的要素	研究分野の例
一次生活資源	精神環境やこころの生活習慣病、生活病理的現象の分析	精神分析学 発達心理学	精神的な健康を維持する生活環境の課題	家庭医学 生活習慣病理学
二次生活資源	社会的により豊かな精神生活をおくるためのライフスタイルの課題	育児論 家庭環境論 人間関係論	健全な精神生活を維持するための生活環境に関する課題	生活環境論 生活文化論
三次生活資源	自己実現の方法や技術に関する分析	生活思想 生活倫理	有意義に余暇生活を送るための社会文化的な環境に関する課題	ボランティア論 余暇生活論

生活学が、こころの問題を解明するためには、臨床心理カウンセラーや精神分析のみではなく、心身全体の健康管理を家庭や地域の生活文化環境を改善することに取り組むことが提案されている。より良い精神生活を送るための知識や技術を学び、生き方を考え、楽しく生きるための知恵を身につける。ライフスタイルや生活環境の改善するための知識や技能を修得しながら、生活病理を全体的に解決にする方法が、生活学のやり方である。

要長	A会場 3号館 321教室	時間	B会場 3号館 322教室	要長
川崎 真	日本の台所空間における調理機器の変遷 一流し台および調理台の高さの事例を中心に 宇宙観・世界観が生活を規定する住居 二ベトナム・黒タイ族の住居空間構造 生活改善同盟会における農村住宅の改良運動について イサム・ノグチの照明器具に関する基礎的研究 手動式洗濯機に関する考察 一婦人誌史料を通して	09:30～ 09:55～ 10:20～ 10:45～ 11:10～ 11:35～	まちづくりの教材としてみた京都 一京都というブランド 日本の生活と魚 一琵琶湖周辺地域の「洗い場」から 情報関連支出から見た生活情報化のメディア特性 市民活動家のライフストーリーにみる女性のエンパワーメント 生活学・生活史・生活研究 一都市生活を中心に	藤 葉 松 本
食				
12:00～14:00 ポスターセッション				
真鳥 小田嶋	大衆娯楽雑誌「キング」の初期にみる家庭の娯楽 生活行動の観点からみた食事時の挨拶行動 チョコされるブトゥ カトマンドゥ盆地コカナのネワール族の住まい シルクロードにおける床坐と懸卓 竹の皮・笹の葉を使用した和菓子用パッケージ 木槍窓一の鍾本利用研究に関する研究	14:00～ 14:25～ 14:50～ 15:15～ 15:40～ 16:05～ 16:30～	高齢期の起居様式 一西宮市サービス利用者の聞き取りからの考察 肥満は病気か一科学史と政策から見る肥満 日本女子大学の学費制度と生活の変遷 第1報 旧制卒業生の場合 日本女子大学の学費制度と生活の変遷 第2報 新制卒業生の場合 芝居館に関する考察 昭和20年代の東京の児童館に関する研究一その2 人工物プログラム科学論から解釈できる生活学の構成	阿 部 亮 頭